

難聴を見逃さないために

3 歳児健康診査



日本耳鼻咽喉科学会

福祉医療・乳幼児委員会

2015 年第 2 版

3 歳児健康診査における聞こえの確認

I. はじめに

3 歳児の頃は、社会性やことばの発達がめざましい時期です。また日常生活活動の中心が家庭内から集団保育の場へと移行する時期でもあります。この時期に難聴があると、ことばを習得することが困難になります。3 歳児健康診査は就学前におこなわれる最後の健康診査であり、聞こえについての確認が重要です。

II. 目標

両側高度難聴および両側中等度難聴の発見が目標です。ことばの習得に遅れをもたらす難聴を発見し、就学時のことばの遅れを予防あるいは軽減することを目指します。



III. 聞こえの確認方法

聞こえの確認方法は、「1. お子さんの耳に関するアンケート（質問票）」と、「2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査（保護者による聴覚自己検査）」に分けられます。

3 歳児健康診査の実施に先立ち、各家庭にお子さんの耳に関するアンケートと保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査の各用紙が郵送されます。保護者は、同封された説明書を読んでアンケートおよびささやき声検査の用紙に記入し、3 歳児健康診査時に提出します。

以下、聞こえの確認方法を具体的に示します。

1. お子さんの耳に関するアンケート

お子さんについて、あてはまるところを○で囲んでください。

1) 家族、親戚の方に、小さいときから耳の聞こえのわるい方がいますか。	はい	いいえ
2) 中耳炎に何回か、かかったことがありますか。	はい	いいえ
3) ふだん鼻づまり、鼻汁をだす、口で息をしている、のどれかがありますか。	はい	いいえ
4) 呼んで返事をしなかったり、聞き返したり、テレビの音を大きくするなど、聞こえのわるいと思うときがありますか。	はい	いいえ
5) 保育所の保育士など、お子さんに接する人から、聞こえがわるいといわれたことがありますか。	はい	いいえ
6) 話しことばについて、遅れている、発音がおかしいなど、気になることがありますか。	はい	いいえ
7) あなたの言うことばの意味が、動作などを加えないと伝わらないことがありますか。	はい	いいえ

2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査

<検査の方法>

- 1) 絵を子どもの方向に向けて置き、1 m位離れ向い合い座ります。
- 2) 「この絵の名前を言うから、お母（父）さんが言った絵を指さしてね。」と子どもに言って、普通の声（会話をする時の声）で、絵シートの表示した絵の名前を言い、子どもが6個の絵をすべて正しくさせるようにします。
- 3) 「今度は小さな声で絵の名前を言うから、よく聞いて、指さしてね。」と子どもに言って、口元を手などで隠し、6個の絵の名前を、ささやき声で1回ずつ言い、正しくさせれば下の表に○、正しくさせなければ×を記入します。

いぬ	くつ	かさ	ぞう	ねこ	いす

検査の注意事項

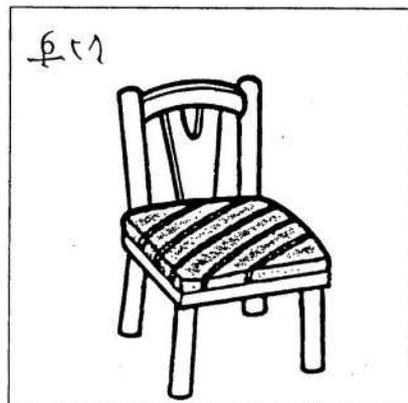
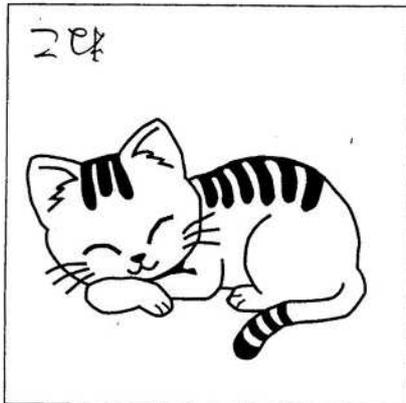
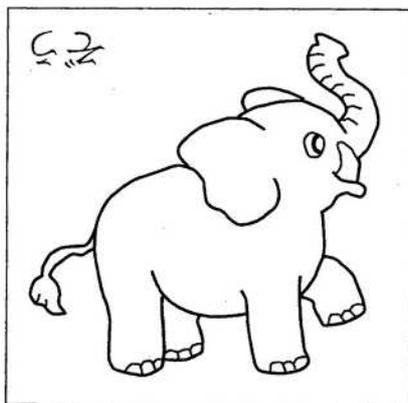
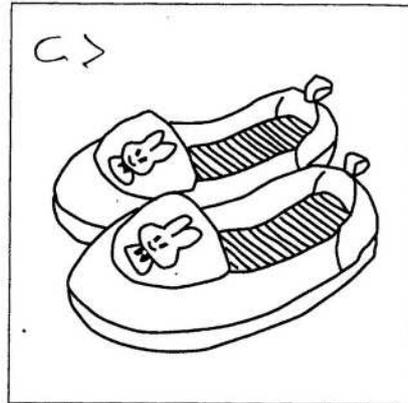
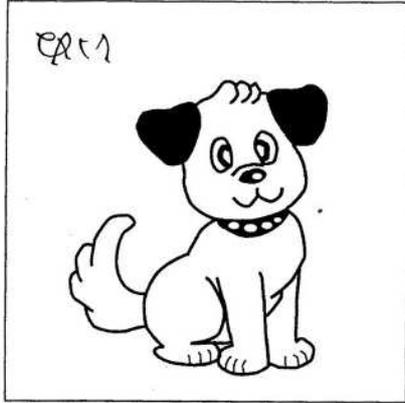
絵の名前を言うのは1回だけです。
聞き返されても、繰り返し言わないでください。また、ささやき声が大きくならないように注意してください。

“ささやき声の出し方”

ささやき声は、息を出すだけの感じで、ないしょ話のようにささやきます。普通の声は、のど（のどぼとけ）に手をあてたとき、指に振動が感じられますが、ないしょ話のようにささやくと振動は感じません。この状態が“ささやき声”です。



絵シート

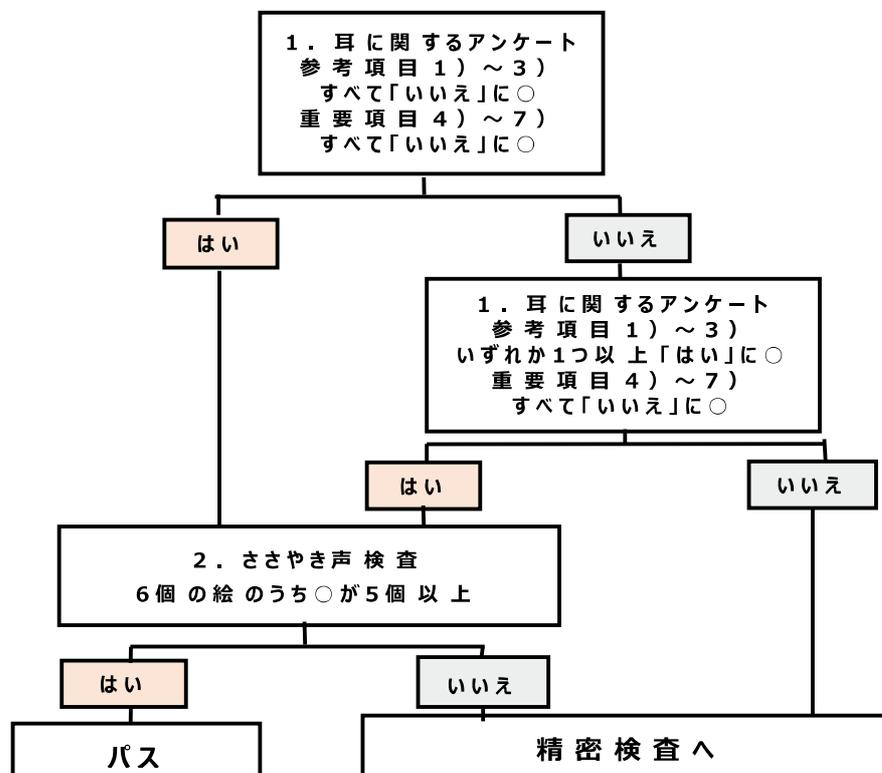


IV. 判定方法とその後の方針

前項の「Ⅲ. 聞こえの確認方法」について、判定方法とその後の方針は以下の通りです。

- 「1. お子さんの耳に関するアンケート」は、1)～3)の参考項目と、4)～7)の重要項目に分けられます。参考項目1)～3)および重要項目4)～7)がすべて「いいえ」に○の場合、あるいは参考項目1)～3)のいずれか1項目以上「はい」に○、かつ重要項目4)～7)がすべて「いいえ」に○の場合は、「2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査」の結果を確認してください。
 - 絵シートの6個の絵のうち、○が5個以上ある場合はパスとします。
 - 絵シートの6個の絵のうち、○が4個以下の場合には精密検査にまわしてください。
- 「1. お子さんの耳に関するアンケート」の重要項目4)～7)のいずれか1項目以上「はい」に○がある場合は、参考項目1)～3)および「2. 保護者がおこなう絵シートによるささやき声検査」の結果にかかわらず精密検査にまわしてください。

以下、判定方法とその後の方針をフローチャートで示します。



V. 精密検査

3歳児は、成人に対して行う聴力検査がまだ出来ないため、幼児用の聴力検査を行います。これに電気生理学的な他覚的聴力検査を組み合わせて、総合的に難聴の有無や程度を判断します。

VI. 難聴を見逃さないためのポイント

1. 保護者の訴えがあれば、“様子をみましょう”との対応をしないで精密検査にまわしてください。

保護者が聞こえやことばについて心配している場合は、難聴の可能性があるため、精密検査で聴力を確認することが重要です。

2. 新生児聴覚スクリーニングをパスしていても、もう一度聞こえの確認をしてください。

新生児聴覚スクリーニングをパスしていても、その後難聴が生じることがあります。聞こえの確認項目で再度聞こえをチェックしてください。

3. 発達の問題と考えられるお子さんも、聞こえの確認が必要です。

発達に問題があると考えられるお子さんと、難聴のお子さんでは、コミュニケーションのとりにくさやことばの発達の遅れなど、類似した点があります。また、発達の問題と難聴が合併していることもあります。その後の療育方針を考えるために、聞こえの確認項目をチェックし、異常があれば判定基準に従い精密検査にまわすことが大切です。

4. 中耳炎を繰り返すお子さんも、聞こえの確認が必要です。

中耳炎を繰り返し、聞こえにくい状態が続くと、コミュニケーションやことばの発達に支障を来すことがあります。また感音難聴に中耳炎を合併している場合は、中耳炎が改善しても聞こえにくい状況が持続します。聞こえの確認項目に異常があれば、判定基準に従い精密検査にまわしてください。

VII. 参考文献

平成9年度厚生省心身障害研究「母子保健事業の評価に関する研究」（主任研究者：久繁哲徳）「三歳児健診時における聴覚検査の評価」分担研究者 田中美郷 1998